

英語コミュニケーションII学習指導案

日 時 令和5年12月8日(金)
 第2校時 10:00~11:05
 対 象 2年6組（40名）
 学校名 北海道札幌北高等学校
 授業者 教諭 小関 隼

1 単元名

教科書 | New Rays English Communication II (いっぴな書店)
 Chapter 10 | Physics Goes a Long Way by Michio Kaku

2 単元の目標

物理学者ミチオ・カク氏のスピーチを読み、物理学と私たちの日常生活の関係性、彼が物理学に興味を持ったきっかけ、現在も彼の興味を引きつける魅力を理解する。また、スピーチの一部はリスニングを通して、物理学に残されている課題と可能性を理解する。章末には、本単元の表現を応用し、「自分の好きな教科をクラスメイトにより興味をもってもらおうこと」を目的とした簡易的スピーチを行う。

3 単元の評価基準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
物理学者のスピーチを読み取るために必要な語彙や表現を理解しており、読み取る技能を身につけている。(読むこと)	クラスメイトにより興味を持ってもらえるように、その教科がどのように日常と関連しているか、好きになったきっかけ、現在も興味を引きつけている魅力を話して伝えている。(話すこと(発表))	クラスメイトにより興味を持ってもらえるように、その教科がどのように日常と関連しているか、好きになったきっかけ、現在も興味を引きつけている魅力を話して伝えようとしている。(話すこと(発表))

4 指導にあたって

(1) 教材観

2012年に公開された物理学者ミチオ・カク氏のスピーチ”The Universe in a Nutshell (Full Presentation)”からの抜粋である。彼が物理に興味をもった意外なきっかけや、正体不明のダークエネルギーやダークマターに関する最新の知見、未来の物理学者への助言が語られ、最後に今も彼の興味を引きつけている物理学の魅力で締めくくられる。たとえ聴衆が物理学に興味がなくとも、引き込まれる内容である。

(2) 生徒観

対象クラスの生徒は、英語の学習意欲に大きく差があり、高い生徒は大きく他を引き離している。社会性の高い話題に対する関心も多様であり、ボリュームゾーンは関心が薄い。しかし、英語力、関心が多様な中でも、グループワークやペアワークで助け合いながら学習することを好む生徒が多いため、言語活動に真剣に取り組む。本単元のトピックである物理を選択している者が20名、その他が20名である。

(3) 指導観

北海道トップクラスの生徒を対象としているため、伝達すべき知識量はすさまじいが、その中でも知

識を活用することを全授業で入れるよう工夫して指導している。本單元では、知識の活用を目指す上で、物理の専門的な内容が取り扱われていることと半数が物理選択者ではない生徒の実態を考慮し、焦点を絞ることにした。つまり、物理学の知識の活用ではなく、物理学者ミチオ・カク氏が物理の魅力を伝える伝え方に焦点を絞り、最終的に生徒が「自分の好きな教科をクラスメイトにより興味を持ってもらう」ことを目的とした簡易的なスピーチを設定した。多様な興味関心を持つ生徒が英語の授業を通して交流し、相乗効果が生まれるようにしたい。

5 単元の指導と評価の計画（計6時間）

配当時間	ねらい（■）、言語活動等（丸数字）	評価の観点			備考
		知	思	態	
5	<p>■「好きな科目」とそのきっかけを共有する。</p> <p>① 共有されたスプレッドシート上に、「好きな科目」、「きっかけ」を書いたり、話して伝えあったりする。</p> <p>■読むこと、聞くことに関する目標を確認する。</p> <p>② Part 1 を読み、物理学と日常の関係性、ミチオ・カク氏が物理に興味を持ったきっかけを理解する。</p>	○			<p>「知識・技能」については後日、定期考査で評価する。</p> <p>授業の中で、一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、生徒の活動の状況を見て指導に生かすことは毎時間行う。</p>
	<p>③ 共有スプレッドシート上に、「好きな科目と日常の関係性」を書いたり、話して伝えあったりする。</p> <p>④ Part 2 を読み、もうひとつのきっかけと、物理学の基本的な力と主要原則を理解する。</p>	○			
	<p>⑤ Part3 を聞き、宇宙を構成する材料を理解する。</p>	○			
	<p>⑥ Part4 を読み、ミチオ・カク氏が今も引きつけられている物理学の魅力を理解する。</p> <p>⑦ 共有スプレッドシート上に、「好きな科目が今も興味を引きつける魅力」を書いたり、話して伝えあったりする。</p>	○			
1	<p>■ミチオ・カク氏のスピーチを聞いて、物理学に対する興味が以前よりも増したか、またそれはなぜなのかを考察する。</p> <p>■話すことに関する目標を確認する。</p> <p>① グループを作り、「自分の好きな教科をクラスメイトにより興味を持ってもらう」ためのスピーチをする。</p> <p>② 共有スプレッドシート上で、互いにフィードバックする。</p> <p>③ クラスメイトから受けたフィードバックを元にスピーチ原稿の改善をする。</p> <p>④ スピーチを録画し Google Classroom で提出する。</p>	○	○	○	後述の採点基準を伝える。

6 パフォーマンステストについて

(1) 実施計画

領域	<input type="checkbox"/> 話すこと [やり取り] <input checked="" type="checkbox"/> 話すこと [発表] <input type="checkbox"/> 書くこと
関連する Can-Do	2 学年 Speaking 身近な出来事および社会性のある話題や、読んだり学んだりした内容に基づいてやりとりや説明を行ったり、自分の意見についての理由とその明確な根拠を述べるができる。
実施内容	「自分の好きな教科をクラスメイトにより興味を持ってもらう」ためのスピーチを行う。
実施方法	1. 共有スプレッドシート上で、以下の3点のアイデア出しをする。(First Draft) ①その教科がどのように日常と関連しているか ②好きになったきっかけ ③現在も興味を引きつけている魅力 2. 教科書の中からスピーチの有益な表現を見つける。 3. グループを構成し、スプレッドシートを元に、簡易的なスピーチをする。 4. スピーチに関するフィードバックをスプレッドシート上で受ける。 5. フィードバックを踏まえ、改善する。(Second Draft) 6. 個人でデバイスを用いて、発表を動画撮影し、GoogleClassroom で、動画を提出する。

(2) 採点基準

○「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」についての三つの条件

条件1 好きな教科と日常生活の関連性を述べている。
条件2 好きになったきっかけを述べている。
条件3 現在も興味を引きつけている魅力を述べている。

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
a	単元で学んだ語彙や表現を適切に使用している。	三つの条件を満たした上で、難語を言い換えて説明する等、聞き手を意識して伝えている。	三つの条件を満たした上で、難語を言い換えて説明する等、聞き手を意識して伝えようとしている。
b	多少の誤りや不自然さはあるが、単元で学んだ語彙や表現を使って話して伝えている。	三つの条件を満たしている。	三つの条件を満たそうとしている。
c	bを満たしていない。	bを満たしていない。	bを満たしていない。

7 本時について (6/6 時間目)

(1) ねらい

「自分の好きな教科をクラスメイトにより興味をもってもらうこと」を目的としたスピーチを行う。

ねらいを達成するため、

- ① 自身のスピーチのために、本単元のスピーチの構成を整理する。
- ② 自身のスピーチのために、本文から活用できる表現を見つける。
- ③ クラスメイトからのフィードバックを元に、スピーチを改善する。

(2) 展開

課程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
本単元の復習 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ねらいの提示 本単元の振り返り 表現を意識する 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいを理解する。 ミチオ・カク氏のスピーチを聞いて、物理学に対する興味が以前よりも増したか、またそれはなぜなのかを考察する。 本文からスピーチで活用できる表現を探す。 	<ul style="list-style-type: none"> 発問→ペアで確認→指名の流れとする。 スピーチが聴衆に興味をわかせるのに成功している以下の要因に意識を向けさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ○物理学と日常の関係性 ○ミチオ・カク氏が物理学に興味を持ったきっかけ ○現在も彼の興味を引きつける魅力 発問→ペアで確認→指名の流れとする。
グループ発表 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> スピーチ 	<ul style="list-style-type: none"> グループを作り、スピーチをする。 (発表内容は、前時までに First Draft として、共有スプレッドシートに書き込んである。) 	<ul style="list-style-type: none"> スピーチの目的、採点基準を伝え、三つの条件と、教科書の表現に意識を向けさせる。 4人グループで、一人3分で行う。 (発表+相互評価) × 4
相互評価 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> 相互評価 	<ul style="list-style-type: none"> 共有スプレッドシート上で、互いにコメントを書き込む。 	
改善 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> リライト 	<ul style="list-style-type: none"> 相互評価を参考に改善し、共有スプレッドシート上で、Second Draft を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 共有スプレッドシートを確認しながら、フィードバックをし、生徒が使える表現を多用にしていく。
パフォーマンステスト (10分)	<ul style="list-style-type: none"> 録画→提出 	<ul style="list-style-type: none"> デバイスでスピーチを録画し、GoogleClassroom で提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間内に終わらない場合は、宿題とし、当日中に提出することを伝える。